

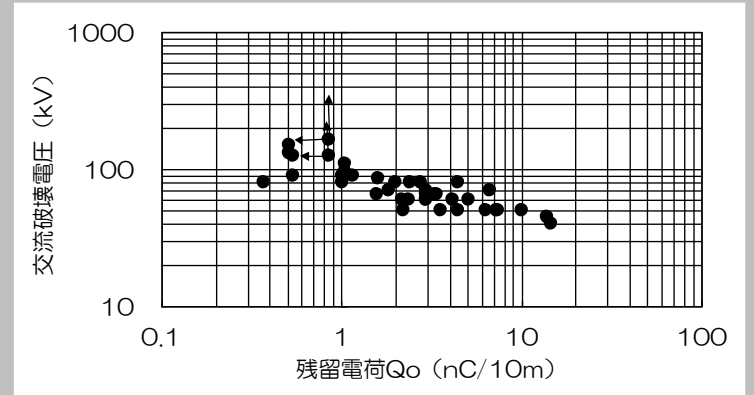
# 特別高圧 CV ケーブル絶縁劣化診断

(残留電荷法)

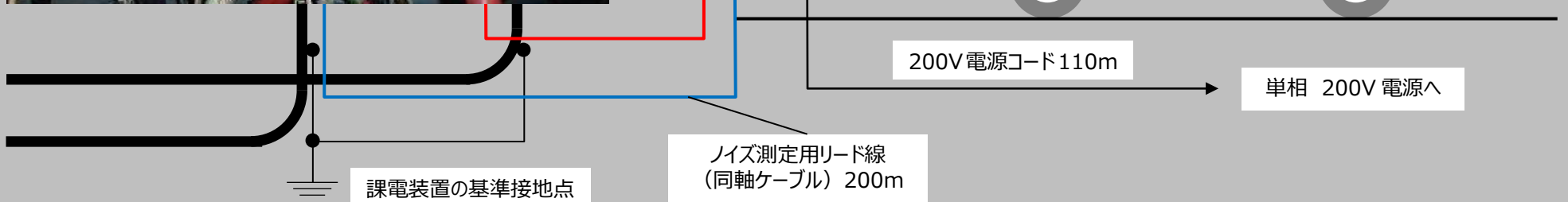
CV ケーブルの絶縁劣化における最も代表的な形態である「水トリー劣化」を非破壊で検出する技術として、「残留電荷法」による絶縁劣化診断を行っております。

この技術は、22~66kV 級の現地布設 CV ケーブルに対する絶縁劣化診断に使用されており、直流漏れ電流法などの従来の診断技術では検出不可能であった**未橋絡水トリー**の検出が可能となり、特別高圧 CV ケーブルの信頼性向上に大きく寄与しています。

## 測定装置および概要



劣化信号と破壊電圧の相関 (22kV)



## 特長

- 豊富な測定実績
- 周囲の電磁界の影響を受けない
- 接地線取外し不要
- 車輦としては、小型で取り回しの良い  
2t 標準車サイズを用いており、  
狭隘な場所にも容易に出入り可能
- 電源歪みの影響を受けない
- 多点・クロスボンド接地線路測定可能
- 最大で 5~10km の 22~66kV 級  
CV ケーブル線路に対応可能
- 直流迷走電流によるノイズの多い  
環境下でも測定可能